



TITLE:

花山天文臺創立滿一年記念日 : 京都
天文學會員に告ぐ

AUTHOR(S):

CITATION:

花山天文臺創立滿一年記念日 : 京都天文學會員に告ぐ. 天界 1930,
10(114): 341-341

ISSUE DATE:

1930-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161577>

RIGHT:

外國にも十指を屈するに足らない。反射望遠鏡が日本に今日の如く普及したことも同好會の力である。事實、今日の日本に反射鏡を持つてゐる人は、殆んど我が同好會員ばかりである。最後に(もう之れ位でよさう!)純粹に天文のグラフィック式な雑誌を發刊した レコード・ホルダーも我が同好會である。そして、世間は今之れをしきりに眞似したがつてゐる。

あへて本會の自慢ばかりを數へ擧げる目的ではなかつたけれど、全く無風状態であつた我が國の社會に、天文の興味と學理とを確實に植え付けたことが、即ち我が同好會の十年史であるものだから、止むを得ず、筆が込つたわけである。しかし、又、一面から見ると、我が同好會にも苦い経験はある。「もはや此れまで」と思ひつめて、切腹しやうと決心したことが二度ばかりあつた。けれど、幸ひに今まで、世間の篤志な人々の温かい同情と、貴い努力とによつて、今日までは生命を維持して來た。

今後の十年は? 否、今後の五年さへ、全く將來の運命は不明である。考へやうによると、今にもつぶれさうな危機を孕んでゐるとも言へる。其れは主として會の財政的方面だ。本會は創立の最初から、溢れんばかりの計畫と、ハチ切れんばかりの熱とを以つて、其の日々々々、カーバイの仕事をして來た。それがために財政上の餘裕は常に見られなかつた。今だつて若干の缺損を負つてゐる。しかし、尙ほ胸中に持ち合はせてゐる計畫と理想とを思ふと、何としてもじつとしてはゐられない。

夢のやうではあるが、今後、いのちをかけて、いろいろの新方面を開拓して行きたい。創立二十年を迎へる日に祝福あれ!!

花山天文臺創立滿一年記念日

〔京都天文學會員に告ぐ〕

時 日 昭和五年十月十七日 朝から晩まで

午 前 中：花山に集合。構内縦覽。歡談。遊戲。

正 午：宿舍81號室にて記念午餐會。

午後^{2時より}_{4時まで}：「過去一年間の業績」各自發表。

午後5時 半：軽い晚餐。

午後7時より：天體觀望。隨時散會。